

開設母体

要件

コーチング学専攻高度大学体育スポーツ指導者養成共同学位プログラム

実践的教育能力育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02ER101	大学体育論	1	1.0	1	春AB	集中		木内 敦詞	体育専攻以外の大学生が受講する教養(共通)科目としての体育授業を一般に「大学体育」と呼ぶ。本講では、今日の大学教員(大学体育教員)に求められる職務を理解するとともに、大学体育の教育の質保証に繋がる知見を体系的に学ぶ。	4/25, 5/23, 6/27 体育科学系棟 B323
02ER102	大学体育授業演習I	2	2.0	1	秋AB	金2,3		木内 敦詞, 長谷川 悦示	新入生対象の大学教養体育授業を対象に、主に体育科教育学で確立されてきた体育授業の観察評価方法を体系的に経験していく。体育授業を観察評価するための分析的な知識・技能・態度を総合的に獲得することを到達目標とし、主観的な評価方法と組織的な評価方法を体系的かつ網羅的に経験する。授業場面の行動、省察記録、面談等から、体育授業を観察評価するための分析的な知識・技能・態度の獲得の程度を、総合的に評価する。	
02ER103	大学体育授業演習II	2	2.0	2・3	秋AB	木2,3		木内 敦詞, 坂本 昭裕, 長谷川 悦示	2年次生対象の大学教養体育授業を演習の場とする。授業担当の経験を学びの出発点とした現実的な演習とするため、授業実践と自己省察の往還を詳細に記録し、ティーチング・ポートフォリオを作り上げる。授業の目標・内容・評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。授業場面の行動、省察記録、面談等から、自立的な省察力の獲得の程度を授業場面、省察記録、面談等から総合的に評価する。	
02ER105	体育スポーツ実践的指導演習	2	2.0	1	春学期	金2		金高 宏文, 松尾 彰文, 山本 正嘉, 前田 明, 高橋 仁大	大学スポーツを先導する実技教育能力を身につけるために大学スポーツの指導者としての専門的知識・態度について概説し、大学スポーツ指導の計画と実践を通して実技教育能力を養成する。	遠隔授業 鹿屋体育大学

実践的研究能力育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02ER106	体育スポーツ実践的研究方法論	1	1.0	1	春AB	集中		松尾 彰文, 山本 正嘉, 金高 宏文, 前田 明, 高橋 仁大	スポーツの実践現場への貢献するための実践的研究の方法論について概説する。特に大学体育および大学スポーツを対象に、その実践の現場で起こる様々な事象について、直接的に寄与する知見(実践の知)を得るための研究方法論について学ぶ。	4/25, 5/23, 6/27 遠隔授業 鹿屋体育大学 体育科学系棟B323にて実施
02ER107	体育スポーツ実践的研究演習I	2	2.0	1	春学期	木1		松尾 彰文, 山本 正嘉, 高橋 仁大	体育およびスポーツにおける実践的な研究とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場でもある『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を講読し、それを題材として実践的研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深めるとともに、自身のデータをもとに実践的研究の論文としてまとめる作業を行う。	遠隔授業 鹿屋体育大学
02ER108	体育スポーツ実践的研究演習II	2	2.0	2・3	秋学期	木1		山本 正嘉, 高橋 仁大, 松尾 彰文	体育およびスポーツにおける実践的な研究を身につけるために、受講者がかかわっている体育やスポーツの現場において、自らがデータを収集し、それを実践研究の論文としてまとめ、『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする、実践的な研究論文を掲載する雑誌に投稿・掲載するまでの作業を行う。	遠隔授業 鹿屋体育大学
02ER109	体育スポーツ実践的研究演習III	2	2.0	2・3	秋学期	木1		松尾 彰文, 山本 正嘉, 金高 宏文, 前田 明, 高橋 仁大	体育およびスポーツにおける実践的な研究を身につけるために、受講者がかかわっている体育やスポーツの現場において、自らがデータを収集し、それを実践研究の論文としてまとめ、『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする、実践的な研究論文を掲載する雑誌に投稿・掲載するまでの作業を行う。	遠隔授業 鹿屋体育大学

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02ER110	大学体育研究演習		2	2.0	1	春ABC秋AB	金1	木内 敦詞	体育・スポーツに関する研究方法・論文執筆方法をテキスト「身体活動科学における研究方法」に沿って体系的に学ぶ。専門とする1つの狭い研究領域だけでなく、体育・スポーツ・健康科学に関する周辺領域の価値観や研究方法を理解することで、大学体育・大学スポーツの発展に寄与する実践研究への着眼力を獲得することを到達目標とする。大学体育・大学スポーツの教育・指導の現場に活かせる実践的研究テーマを複数考案し、研究計画書としてまとめたレポートにより評価する。	

高度指導者教養育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01EH016	つくばサマーインスティテュート		1	2.0	1・2	春C	集中	長谷川 悦示	筑波大学体育系と学術協定を結んでいる海外の大学と共同で企画する。英語を公用語とするプログラムである。体育・スポーツ領域にかかわる大学生・大学院生、若手研究者を対象とし、日本の体育・スポーツ文化を理解し、体育・スポーツ教育、スポーツ科学に関わる諸外国の現状と課題について情報を共有し、協力して国際的課題に取り組むグローバル人材として資質の向上を図ることをねらいとする。出身国や研究領域の異なる大学院生からなるグループを構成し、疑似国際共同研究グループとして、国際的課題を取り上げて研究課題として設定し、先行研究の概観、仮説設定、研究方法選定、研究成果の公表と還元について検討し、全体計画を発表する。課題の重要度の査定から、研究成果の還元に至るまでの課題解決プロセスの各ステージについて、多国籍の大学院生に対する指導経験が豊富な世界的に著名な研究者の講義を受け、疑似国際共同研究グループは、各ステージに対応した課題に毎日取り組む。	7/14-7/21
01ZZ411	国際インターンシップ		0	1.0	1 - 5	通年	応談	野村 港二	国際的な職業体験(海外の大学におけるPFF体験を含む)や海外の大学・研究機関が主催する各種トレーニングコースへの参加経験について、単位認定を行う。コーディネーターにより事前にプランニングされた海外の大学訪問・大学院生との交流等を含む。希望者はインターンシップ実施計画書をあらかじめ提出する。事前指導を重視するため、受講者は訪問前レポートを提出する。帰国後にもレポートを提出し評価を受ける。合格者に対しては、単位認定を行う。受講希望者はTWINSで受講申し込みをしたうえで、計画書を提出のこと。なお、渡航費の支援を希望する者は、応募期限に注意すること。	渡航費支援を希望する者は、「大学院共通科目HP」の応募要領を参照のこと。
02ER004	コーチングの哲学と倫理		1	1.0	1	春AB	月5	浅井 武, 岡子 浩二, 深澤 浩洋, 齋藤 健司, 向井 直樹, 土屋 裕睦, 勝田 隆, 浅川 伸	コーチの仕事と求められる資質および能力を理解するとともに、コーチング実践の根幹となる哲学と倫理について学習し、これからの時代にふさわしいコーチングを創造していく能力を養成する。また、授業を通してコーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、それらを報告し議論させることをとおして、コーチとしての自らの倫理感や哲学感、視座を明確にする。授業の目的および到達目標: 自らのコーチングを省察し、新しい時代にふさわしいコーチングを創造できる能力を身に付けさせ、国際的に活躍するコーチ、社会のリーダー的存在となるコーチ、コーチを教育できるコーチング系の大学教員の育成を目指す。	
02ER112	最先端スポーツ科学理論		1	1.0	1	春学期	木4	松尾 彰文, 山本 正嘉, 金高 宏文, 前田 明, 高橋 仁大	本授業では、大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養として、体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を概説し、その見識を深めることを目指す。授業は、鹿屋体育大学教員による講義、学外講師を招聘して開催する特別講義、研究セミナー、さらに論文指導研究会および学位論文発表会で実施される。	遠隔授業 鹿屋体育大学

博士論文研究能力育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02ER113	博士論文課題演習I	8	2.0	1	春AB秋AB	金4		木内 敦詞, 中川 昭, 長谷川 悦示, 坂本 昭裕	本授業では、大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養として、体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を概説し、その見識を深めることを目指す。授業は、鹿屋体育大学教員による講義、学外講師を招聘して開催する特別講義・研究セミナー、さらに論文指導研究会および学位論文発表会で実施される。	
02ER114	博士論文課題演習II	8	2.0	2	春AB秋AB	金5		木内 敦詞, 中川 昭, 長谷川 悦示, 坂本 昭裕	本授業では、大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養として、体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を概説し、その見識を深めることを目指す。授業は、鹿屋体育大学教員による講義、学外講師を招聘して開催する特別講義・研究セミナー、さらに論文指導研究会および学位論文発表会で実施される。	